

# すぎのこ

165

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2022 1/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264  
狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706  
滝恋研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝恋村千度 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／ひづみ保育園 先生からのお手紙／制作だより  
4面 日本芸術文化振興会助成事業／すぎのこ人形劇フェスタ@はんのう／演育実践報告 ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: [support@suginoko.org](mailto:support@suginoko.org)

## 二〇二二年の新しい道を ひらくために

理事長 大場 隆志

新年、明けましておめでとう  
ございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様におかれまして本年も素敵な一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

昨年新型コロナウイルスの



影響で、人形劇を通じた幼稚園・保育園への演劇活動が制限される中、今までの仕事や業務の在り方を見直し、できる限りの演劇活動を提供してまいりました。

そして多くの皆様の多大なるご協力を得ることで、何とか無事に新しい年を迎えることができました。

まだまだ完全なる終息が見えない中、日本のみならず世界を取り巻く経済環境にも大きな打撃が未だ続き、難しい経済環境が、なかなか改善されない状況にあるのは、私たちの団体だけではありません。ですが一方で、ワクチンの接種が進み、感染者が少なくなり、緊急事態宣言がひとまず終わるなど、わずかながら明るい兆しもあります。

すぎのこ芸術文化振興会もこれまでの「子どもたちにナマの舞台の感動を届ける」という基本理念を再認識して着実に物事をすすめ、将来を展望して新たな取り組みに邁進してまいります。

すぎのこ芸術文化振興会の理事長として、昨年の状況を振り返り、今年から更に新たな道をひらくために、安岡正篤師の「六中観」なる言葉を心に刻みたいと思っておりますので、皆様にもご紹介いたします。

「六中観」は、安岡師の自作と思われませんが、師自身「私は平生密かに此の観をなして、如何なる場合も決して絶望したり、

「六中観」は、安岡師の自作と思われませんが、師自身「私は平生密かに此の観をなして、如何なる場合も決して絶望したり、

仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている」と語っており、人物を修練するための方途を説いた言葉です。

「忙中閑あり」どんなに忙しい中でも閑はつくられるし、またそういう余裕を持たなければならぬ。

「苦中楽あり」どんな苦しみの中にも楽は見つけられる。

「死中活あり」もう駄目だという状況の中にも必ず活路はある。

「壺中天地あり」どんな境涯の中でも自分独自の別天地を持つ。

「意中人あり」尊敬する人、相許す人を持つ。

「腹中書あり」頭の知識ではなく人間の土台をつくる書物を腹に持つ。

また、私の尊敬する人物の一人でもあります松下幸之助氏の言葉にも次のような言葉があります。

「現実を否定してもいけない。是認してもいけない。容認しなければならぬ」

現実を否定しても是認しても、現実には変わらない。容認する。即ち現実をありのままに抱きかかえて、そこから一歩を踏み出すことが大事だ、ということだと思います。

死中に活をひらくために忘れてはならない心得であると思います。

最後に、松下幸之助氏がその体験からつかみ取った、人生の急所を衝いた言葉をご紹介します。

「悲運と思われる時でも、決して悲観し失望してはいけない。その日その日を必死に生き抜くことが大事。そのうちきつと、思いもしない道がひらけてくる」

新しい年を迎え、忙中の閑、一人静かに噛み締め、自らの糧としたいと思います。

## 巡回公演だより

このつぎ  
なあと

班

「このつぎなあと」は今年度で、日本全国を回り終えます。

私は「このつぎなあと」が始まった年度から、4年近く、息子役

として出演してきました。4年の間、「子どもたちにもっと喜んでもらうためには、どうしたらよいか？」といつも考え、作品と向き合ってきました。

出演者が変わるたびに話し合いをし、刺激を受け、より良い作品を目指していくのは、とても楽し

い作業でした。

このお話の中で、たぬきはいろいろなものに化けます。「次は何に化けるかな?」「また、たぬきが来た!」と言う子どもたちのワクワクした声、熱気は、舞台の上まで届きます。そんな風に子どもたちと舞台が一体になるとき、幸



せを感じます。

日本の民話の持つ温かさを子どもたちの心に伝えられるよう、今年度の最後まで、心を込めて演じていきます。

### トン吉とカラス

班

昨年新型コロナウィルスの流

行により、なかなか上演ができな日々が続きましたが、少し落ち着いた10月から、九州地方を約一か月ほど巡回上演することができました。

「トン吉とカラス」は、先生方や子どもたちが「どんなお話なんだろうね?」と、始まる前から話していることがよくあります。自然と人間との共存が大きな柱ですが、トン吉とカラスのかけ合いにワクワクしながら楽しく見られるお話であることが、子どもたちには伝わってくれたらと思っています。

昔話ですが、身近な景色や生き物に興味を引かれ反応している子が多く、知らないお話でもその一つ一つを楽しんでくれていたことが印象深いです。なかでもカラスは登場するだけでワァッと盛り上がる存在で、面白くも憎らしく場を乱す存在です。カラスのいたずらに笑う子や怒る子もいますが、それだけ夢中にさせることができれば、楽しんでもらっている証拠なのでホッとします。

新年からは首都圏を中心に上演いたします。今年も楽しい人形劇を届けてまいりますので、よろしくお願いいたします。

### はだかの王様

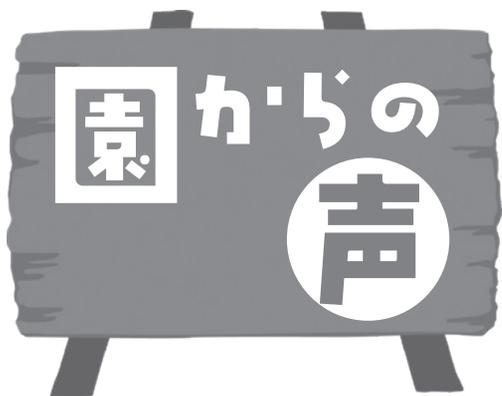
班

新しい年に、皆様にこの紙面を通じてご挨拶ができることは、本当に喜ばしいことです。去年までは、長いことコロナ禍にあつて人形劇の上演が少なかったため、こ

とさらに、今年は皆様に会えることを楽しみにしております。

久しぶりに一期一会という言葉を思い起こしました。

その日、その時を大切にしよう。上演が少ないときには、自分の居場所がなくなるような不安が頭をたげましたが、



### このつきなかに

■室賀保育園(長野県上田市)

「うさぎとかめ」から、つぎの「このつきなかに」へ舞台が変わるときも見せてもらうことで、子どもたちの中でも話が変わるといいう意識を持てるよい機会となりました。

年長児は、最後のためぎのさみしい気持ちなどにも気付くことができ、見えるものだけではなく、心を読む力もついてきたことを感じました。細かい演出もとてもすばらしかったです。

■神科第一保育園(長野県上田市)

人形の動きやセリフなどの面白さを感じ、笑ったり、手拍子をしたりして楽しんでいました。「このつきなかに」のお話は、登場人物の気持ちになって楽しく見ている子もいましたが、なかにはセリフなしの間、集中がとぎれそうな様子の子もいました。

「うさぎとかめ」はテンポもよく、内容もわかりやすかったです。

■神科第一保育園(長野県上田市)

「うさぎとかめ」の楽しいお話ながら、子どもたちも声を出して笑いながら、喜んで観ることができま

引き込まれて集中しているとこ

ろから、暗転して「このつきなかに」のお話へ変わりましたが、不安になったり怖がりたりする子もおらず、音楽に合わせて体をゆらしたり、大蛇や鬼の登場に驚いたりしながら、劇を楽しんでいました。

### トン吉とカラス

■横瀬保育所(長崎県西海市)

こんなにキラキラした目の子どもたちを見るのは、本当に久しぶりでした。

少し難しい内容でしたが、普段はすぐ飽きてしまう子どもたちも、人形の動き、楽器の音に反応して、最後まで集中して観ていて驚きました。さすが役者さんたちです。子どもたちを引きつける力すごいんです。私たちも負けないように、さらにパワーアップで頑張ります。

「ななつのこ」などのわらべ歌のすばらしさも再認識しました。子どもたちと一緒に歌って、伝えていきたいと思っています。

園内観劇は、園児全員が同じ作品を共有できるので、来年度も子どもたちに見せてあげたいと思いました。

■すみれ保育園(福岡県福岡市)

毎年楽しく観劇させていただいております。今回の内容は少し難しいように感じましたが、人形の動きや演技、また生演奏がすばらしく、園児も引き込まれて楽しい時間を過ごすことができました。

### はだかの王様

■曙保育園(山口県岩国市)

12月に生活発表会で年中組が「さんびきのやぎのガラガラドン」のオペレッタを発表することになったので、子どもたちにも良い刺激になりました。とても楽し

んで観ることができました。お人形の目の動きにも、子どもたちがワクワクして楽しんでいました。

■ひつみ保育園(山口県柳井市) 絵本で見た「さんびきのやぎのガラガラドン」。プロの演技に感動しました。

音の出し方や体全体で表現される迫力ある「ガラガラドン」。支援センターでもいつもとちよつと違う楽しい企画として、子どもたちを楽しませるアイテムを持ちたいと思います。

また、難しいですが、人形と触れ合うことができるようになると最高ですね。近くで見ると触れることができれば、一つ世界が広がります。

### おむすびころん

■広田保育所(福島県会津若松市)

子どもたち、とても喜んで観ていました。一緒に歌ったり、踊ったりする場面もあり、楽しみながら参加することができたと思います。

人形の動きや音楽なども可愛らしくて、とてもよかったです。

■尾上保育園(青森県平川市)

コロナ禍の今、大人も子どもも制限されることが多くなり、子どもたちにも様々な場面で我慢を強いることが多くなっていたのですが、「すぎのこ」さんの人形劇を観劇し、大人も子どもも思いきり笑うことができました。

笑うことのすばらしさと大切さを、改めて実感しました。お話を通して、生きていく上で大切なことをたくさん教えていただいた一日でした。





令和4年「おむすびころりん」  
ころころ今年もコロナ禍なんかに  
や負けないぞ!!  
お爺さん、お婆さん、隣の爺さ  
ん、そしてネズミたち出演者全員

### おむすび ころりん

班

自力ではどうしようもなく感じる  
とき、他力とのつながりを感じた  
ことも確かです。  
「縁」というのは関係性のこと  
でしょう。ヒトは何兆個もの細胞  
の関係で成り立っているし、社会  
は無量無数の人間関係によって成  
り立っています。自分が人形を動  
かすとき、自分の力なんてどこに  
もなく、人形を通して子どもたち  
と心を通じ合う、そんな他力本願  
の中に「縁」を見つけます。  
本年もいろいろあることと思  
いますが辛い思いを経験してこそ、  
それを乗り越えて、皆様との「縁」  
を深めていきたいと思えます。子  
どもたちの笑顔を求める旅は、ま  
だまだ続きます。

### もぐもぐ

班

昨年はコロナの影響で、例年と  
比べ上演回数は激減しましたが、

の今年の抱負です。  
一昨年から徐々に公演回数が減  
り、感染を恐れて外出もできるだ  
け制限した自粛生活が続いて、家  
の中の時間も長くなり：ハ〜と溜  
息と我慢の日々。  
公演先で普段から行なっている  
密閉、密集、密接のための換気  
消毒、マスク。でも今年こそは、  
コロナ禍が終息して、制約も解除  
され、みんなと会うときには大き  
な声で「おはよう!」「こんにち  
は!」と笑顔で挨拶して：公演後  
には、人形たちとハイタッチしな  
がら感想や意見を聞ける日を迎え  
られたらいいなあ!!  
「おむすびころりん」班はこれ  
からも引き続き、感動と笑顔を持  
って全国を公演し、みなさんと元  
気にお会いできるのを楽しみにし  
ております。

「かもとりこんべえ」「そっくり  
のくりのき」「ねずみの嫁入り」「小  
坊主・ずいてん」「三匹のこぶた」  
「犬の話」「なかよし」「証城寺の  
たぬきばやし」「歌とクイズ」他  
ご観劇の方の年齢・時間・料金  
等により、作品が選択できます。  
ご相談ください!



感染予防対策をしようかと思った園  
の子どもたちは、マスクをして、  
大きな声が出せなくても、とても  
楽しんで観てくれました。  
あるアンケートに「身近で、な  
かなか人形劇を観る機会がないの  
で、生の迫力は違うなど、改めて  
感じました。子どもたちも、体で  
感じる事ができたとおもいます」  
と書いてありました。とても、嬉  
しかったです。

## ひづみ保育園 先生からのお手紙

### 劇団すぎのこ様

立秋をすぎ、日ごとに寒さが増しておりますが、お  
元気でご活躍のことと思います。

先日は、「はだかの王様」の劇を楽しく拝聴させて  
いただきました。誠にありがとうございます。子ども  
たちは、集中してよく見ていました。人形の動きや、  
表情、声などすばらしい表現で、まるで人形が生きて  
いるようでした。皆様の表現力に大変感動いたしました。  
今後も益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ひづみ保育園 職員一同

いちょうが葉を散らし、一面に黄色のじゅうたんを  
敷きつめているこの頃です。

子どもたちは季節の移ろいを体中で満喫しています。

皆様もお元気でご活躍のことと思います。

先日は夢のように楽しい時間をありがとうございます。迫力ある演技、まるで人形が  
生きているかのように、思わず見入りました。そして、みなさんと子どもたちの息づかい  
が交差し、すてきな時間でした。

子どもたちにこのコロナ禍の中、楽しい体験をと、すぎのこさんとのご縁で叶えること  
ができましたこと、本当に感謝しております。これからも、子どもたちに人形劇を通して  
夢と感動を送り続けてください。

どうぞ健康に気を付けられ、益々のご活躍をお祈りしています。

支援センター担当 石田久美子



令和3年11月 ひづみ保育園

## 制作 たより

あけましておめでとうございませう。昨年は  
いろいろと動きの多い一年になりました。園  
内の忙しい日々の中で、一つの清涼剤にで  
もなればと思いい、様々な園様に人形劇のお  
電話をさせていただきました。

先生方も行事の調整や園内での新たな教育  
様式、保護者様との連携と、ここ数年いろい  
ろな変化がある中、電話越しに「大変でしよ

うけど、頑張ってくださいね」「お体に気を  
付けて人形劇届けてくださいね」等のお気遣  
いのお言葉をいただくことがあります。疲労  
が溜まったり、気持ちに余裕がなくなると、  
周りにいる人の気持ちや表情を感じ取れなく  
なってしまうことがある中で、園の先生方は  
忙しい中でも私たちを気にかけてくれます。  
なかなか人と会う機会が少なくなっている  
今だからこそ、一期一会の精神を大事に、上  
演先でも皆様と思いやりのある触れ合いがで  
きれば：そう考える今日この頃です。

(太田 令)

# 独立行政法人 日本芸術文化振興会 助成事業



## トン吉とカラス

「トン吉とカラス」は、独立行政法人日本芸術文化振興会「令和3年度芸術文化振興基金」の助成対象として、1学期に北海道地方、2学期に九州地方で公演を行い、現在は関東地方を巡回しております。

昨年コロナの影響で、例年並みの公演数には及びませんでした。が、だんだんと落ち着きを取り戻しているように感じます。

いつもご観劇して下さる皆様、迷いながらも観劇を決めて下さった皆様には、心より感謝申し上げます。そして、昨年ご観劇が叶わなかった皆様にも、早くこの状況が落ち着きまして、お会いできる日を楽しみにしております。

これからもすぎのこは、子どもたちに笑顔をお届けするために日々邁



進してまいります。ご観劇を検討される際はぜひ、劇団すぎのこをよろしく願っています。



9月某日、劇団関係者へ向けたゲネプロを開催し、新演出「そっくりのくりのき」が初披露されました。すぎのこが制作する作品として、初となる映像演出を取り入れた本作品。臨場感のある映像によって、四季折々の自然の中で繰り広げられる「いのちのつながり」を、より一層、感じることができるとのつながりの大切さ、ありがたさを再認識することとなりました。

「そっくりのくりのき」の作品を観てくださった方々が、心の中にか温かいものを感じていただければ幸いです。

年度につきましては首都圏での上演のみとさせていただきます。来年度以降の巡回予定につき

## すぎのこ 人形劇フェスタ@はんのう



昨年11月7日(日)に、以前研修センターのあった埼玉県飯能市の市民会館において、「すぎのこ人形劇フェスタ@はんのう」を開催しました。

小春日和で紅葉も美しく、新型コロナウイルスの感染者数も下げ止まりの状況だったので、午前の部、午後の部とも、たくさんのご家族連れにご来場いただき、人形劇を楽し

ましては、決まり次第ご報告させていただきますので、よろしくお願いたします。

んでいただきました。

絵本「くまのがっこう」から生まれたルルとロロのお話「ルルとロロの宝さがし」は、映像を取り入れた作品で、すぎのこにとって新しい挑戦です。そして、すぎのこの古典「おだんごばん」は、手遊びが楽しく、教訓もしっかりある人形劇です。

劇場での演出は、園のときは違った楽しさだった。

- ・「おだんごばん」を観て、パンが食べたくなり、パン屋さんに寄って帰った。
- ・ルルとロロの演者の動きがかわいらしかった。



子どもが大笑いしていた。など、アンケートにもうれしいご感想をたくさんいただきました。身近にいらんただける巡回公演は、すぎのこのいちばん大切な事業です。しかし、今回の公演を経験して、休日にご家族や友達同士で、大人も子どもも楽しんでい

## 演育実践報告

昨年10月1日(金)埼玉県飯能市にある、さゆり幼稚園において、演育実践講座を行いました。内容は、すぎのこ演育ハンドブックに掲載している「かちかち山」。

ねらいは、感じるココロ、考えるアタマ、表現するカラダをバランスよく高め、人と人とのかわりの中で、基本的な表現力を養うものです。

子どもたちは、たぬき、うさぎのお面を頭につけて、セリフを言ってみたり、それぞれがどんな気持ちかを考え、話してくれました。また、音楽に乗って踊り、楽しみ、一体感を感じ取るストップモーション・相手を観察する鏡の表現のプログラムでは、元気に体を動かし、楽しんでくれました。

人間力の基盤とは、  
「見る力」人や状況や大切なものを見て理解する力  
「聞く力」自分とはちがう人や知らないことを聞いて知る力  
「感じる力」心が素直に反応する力

「話す力」心にあるものを言葉にする力  
「伝える力」自分の表現したものが相手に伝えられる力

ただける温かい劇場公演のすばらしさも実感しました。ご来場いただいた皆様、ご協力いただいたスタッフの皆様、心よりお礼申し上げます。



であると思います。

現代と次の時代の、あふれる情報・未知との出会い・多様な価値観にしっかりと対応し、自分の個性と他人の個性を理解して、個性の種を育むことで、心豊かに生きていく力となります。

今年も、すぎのこは、このテーマと方法である「演育」を全国各地実践していきます。

演育ワークショップ・プログラムは、他にもたくさんあります。対象年齢・実施時間などで内容も変わります。ご相談ください！

## 各種SNSフォロー&登録をお願いします

Instagram 劇団: @puppet\_suginoko  
巡回班: @suginoko\_junkai  
YouTube チャンネル登録名:  
「人形劇団すぎのこ」  
<https://www.youtube.com/channel/UCj3Ra-N-A2o1vJk4nZkaVRw>

活動記録(令和3年11月~12月)

11/7 すぎのこ人形劇フェスタ

@はんのう

於: 飯能市市民会館

12/25 第二学期全国巡回公演終了